



## 東部教育事務所社教便り『社窓No.51』

令和4年度高知県連合婦人会

「リーダー研修会」

東部教育事務所（担当：井上）

安芸市矢ノ丸1-4-36

TEL：0887-34-3591

FAX：0887-34-3592

E-mail：310304@ken.pref.kochi.lg.jp

# 令和4年度高知県連合婦人会「リーダー研修会」

令和4年10月21日（金）に高知県婦人会館にて、高知県連合婦人会のリーダー研修会が開催され、74名の会員の参加がありました。山下連合婦人会会長からの主催者挨拶があり、講師を招いての研修が行われました。閉会後にはマルシェも開かれました。山下会長からは、「世界規模で発生している自然災害を問題視し、地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出量ゼロを目指して、高知県連合婦人会として今後も活動していきたい」との話がありました。研修では、高知県立大学文化学部准教授の菊池直人先生による『脱炭素社会』をテーマにした講話があり、真剣なまなざしで話を聞いている参加者の姿が印象的でした。マルシェでは、地域の婦人会の皆さんが販売活動を行いました。東は東洋町から西は三原村まで各地域の特色ある郷土料理などが並びました。郷土食を次世代に伝える活動などを通して、高知県連合婦人会は今後も年齢を問わず、活動の幅を広げていくことを目標にしています。



### ☆マルシェ☆

各地域の手作り品や郷土料理を販売しました。人気の商品はすぐに売り切れ大盛況でした。東部管内からは、こけら寿司（東洋町）、田舎寿司詰め合わせ・羊羹・西山きんとし（室戸市）、桜餅（奈半利町）、手作り袋・小物（安田町）、あなごうせんべい・ちらし寿司・赤飯（安芸市）、ちりめんじゃこ（香南市）などが出品されていました。

参加者からは、「それぞれの地域の郷土料理が食べられるのでうれしい。久しぶりに他地域の会員と交流ができたので楽しかった」などの声も聞かれました。



室戸市連合婦人会



奈半利町婦人会



安田町女性の会

## 【研修内容より】

菊池直人先生から、脱炭素社会（カーボンニュートラル）の達成に向けて国際的な取組が進められる中、「なぜ、脱炭素社会が必要なのか」「私達に求められる生活行動とは何か」について詳しく教えていただきました。

参加者からは、家庭菜園なども脱炭素社会への一歩になり得るのかといった質問や自家消費型太陽光や省エネ住宅は、地球にも家計にも必要といった感想等もありました。

「脱炭素社会（カーボンニュートラル）」とは、排出が避けられない温室効果ガスを「吸収」または「除去」することで、人類の活動が大気中の温室効果ガスの増減に対して影響を及ぼさない（ニュートラル：中立であること）ようにすることです。具体的には、二酸化炭素等の温室効果ガスの人為的な排出量をできるだけ削減した上で、削減しきれなかった分を植林・森林管理などで二酸化炭素を吸収し、差し引きゼロにすることです。日本は、2050年までに脱炭素社会の実現を目指すことを宣言しています。現在のところ、地球全体で400億トン程度の二酸化炭素排出量に対し、自然吸収は年間217億トンに過ぎず、46%は大気中に溜まっていくと見積もられています。脱炭素社会実現のためには、国際的な協力の枠組みが必要です。世界の平均気温が1℃上昇した結果、海面上昇による陸地の水没や気候変動が発生し、世界各地で異常気象が多発しています。高知県においても土砂災害発生件数が増えており、異常気象との関連性が懸念され、身近な問題となっています。

脱炭素社会実現のための全国的な取組として、高性能の住宅や電動車の整備、地域の中でエネルギーを循環させるような脱炭素型まちづくり等があり、私たち一人一人の生活についても見直していくことが求められています。具体的には、日々のエネルギーを節約する、二酸化炭素排出量の少ない企業やサービスを選ぶようにする、自家用車よりも公共交通機関や電動車を使う、自然環境に優しいファッションをする（再利用する）、食品ロスをなくすといった行動です。社会や環境に配慮した消費活動「エシカル消費」を一人一人が実践し、どのような行動が正しいのか、しっかり情報を得ることが必要です。

最後に、高知県で取組を進めている「環境パスポート」を紹介します。これを活用することで、自分たちがどれくらい環境に配慮した取組をしているかを知ることができます。



高知県立大学文化学部准教授 菊池直人先生